

茨城県護國神社への 特攻勇士之像奉納事業・ 除幕式に参列して

茨城偕行会 事務局長

佐々木克徳 陸自71

平成30年10月14日(日)茨城県護國神社へ(公財)特攻隊戦没者慰霊顕彰会より奉納された「特攻勇士之像」の除幕式が厳粛且つ盛大に斎行された。

本事業は、大阪芸術大学有志で結成された「日本人の心を伝える会」が、「あ、特攻」のCDを製作し、「慰霊を通じて史実を後世に伝え、特攻隊戦没者の精神を今一度国民の肝に銘じ、我が国の末永い繁栄に資することを願った」企画が原点となっている。

この企画に賛同して当該CDの校閲などに当たった(財)特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会(現 特攻隊戦没者慰霊顕彰会)が、全国の護國神社等への奉納設置について協力を行い、平成19年4月鹿兒島県護國神社に初めて設置

後、本年までに17か所に奉納設置されている。

18番目となった茨城県護國神社への奉納については、平成28年12月、特攻隊戦没者慰霊顕彰会(以下慰霊顕彰会という)より、茨城偕行会に対して協力依頼があり、護國神社の了解と協力のもと、建設準備を開始した。

平成29年6月、茨城県特攻勇士之像建設委員会(会長 幡谷祐一茨城県防衛協会会長)を設置、原善昭茨城偕行会会長(陸自57)を事務局長、事務局の主要メンバーを弊会役員で編成するとともに、英霊にこたえる会茨城県本部、茨城県隊友会等の協力を得て、県内の企業・団体、個人に対して「建立奉賛のお願い」を送付・配布し、広く奉賛をお願いした。

年度末には、建設事業実施に必要な浄財の目途が立ち、平成30年4月末頃を目標に施工を進めたが、「特攻勇士之像」制作の遅れがあり、やむなく建設完了を10月初旬、除幕式を14日に延期して、奉賛活動を継続することとなった。

この間、建設委員長の幡谷祐一氏が急逝されたため、ご子息の幡谷定俊氏に建設委員長に就任頂き事業を継続、現在に至っている。

13:00、開始の除幕式は、神事の後、幡谷定俊建設委員長、藤田幸生慰霊顕



彰会理事長、熊谷猛偕行社副理事長、大澤嘉昭茨城偕行会名誉会長、中村恵輔英霊にこたえる会代表、小澤武隊友会代表による除幕が行われた。

勝田駐屯地音楽隊による荘厳な奉納演奏が吹奏される中、凛々しい勇士之像が姿を現すと約100名の参列者から感嘆の声と拍手が沸き上がった。

竣工式典では、委員長、護國神社宮司、顕彰会代表よりそれぞれ挨拶が行われ、台座の施工建設に当たった雨谷勝弘氏(弊会賛助会員)に感謝状が贈呈された。

また、金澤孝一事務局長(陸自58)から建設経過とともに、多くの方々の浄財で完成した勇士之像を、今後も

しつかり慰霊顕彰するため慰霊顕彰奉賛会を設置予定との報告がなされた。茨城偕行会としても、来年度以降の主要事業として積極的に取り組んでゆく計画である。

引き続き実施された直会には、慰霊顕彰会専務理事衣笠陽雄氏の献杯の発声で開始、途中には、勇士之像制作者の阪井泰彦氏(今回2基目の制作)より、制作に係るエピソードの紹介や海野徹氏(那珂市市長)から特攻に関係する親戚への想いのこもった挨拶が続いた。

中締め前に、熊谷猛偕行社副理事長より式典に相応しい謡曲が披露され、2時間に亘る行事は、滞りなく終了した。

特攻勇士之像の慰霊祭は、今後毎年10月の第2日曜日と予定されており、多くの参加者と来年の再会を約しながら、会場を後にした。

終わりに、本事業の実行に際し、賜った茨城偕行会・偕行社の皆様をはじめとする多くのご支援、ご奉賛にこの場をお借りして御礼申し上げます。また、茨城県護國神社関係者の献身的なご支援、ご協力に、併せて御礼申し上げます。

なお当日の除幕式の模様は、10月15日付産経新聞(茨城版)、10月18日付茨城新聞に掲載紹介された。

